

11月の予定

委員会	11月 4日
死者のためのミサ	11月 4日
七五三祝福ミサ	11月 11日
ヨゼフ会例会	11月 14日
初聖体	11月 25日

死者の月にあたって

主任司祭 小林 陽一

11月は死者の月と呼ばれ、教会は、この月に、帰天した方の為に祈るように勧めております。死者は、生涯の終わりを迎えた後、生者の世界から別れ、神のもとに向かいます。けれども、信仰を持って死を迎えた人は、信者であることに変わりありません。それは、キリストを信じていた死者の魂は、キリストの御手の中にあり、信仰によって結ばれたイエス・キリストとの一致の絆は続いているからです。亡くなられた信者は、生前、ご聖体を拝領し、許しの秘跡、病者の塗油の秘跡を受けて、キリストとの一致の絆を強めておられました。このキリストとの一致の絆は、死後もわかたれることはありません。

死者の魂の清めは、この世にある人の祈り、特にミサによる祈りによっても行われます。死者のためにロザリオの祈りをささげることもよいことです。祈りをささげて、死者、特に帰天した家族、友人、恩師を思いおこすことも必要です。

日本の神学校で長く教えておられた、80歳代の、ヨーロッパ出身の神父様が、お仕事で忙しくしておられた時、若くして帰天されたお母さんの夢を見たそうです。目が覚めて、「どうしてお母さんが・・・」と思って起きた後、その日、親しい方から「今日はあなたのお母さんの命日ですね」と知らされ、「ああ、そうだったのか」と思われたそうです。お母さんが、神父さまに、お母さんの命日を知らせようとしておられたということと、私は思いました。神に召された方々は、特に私たちの行く末を気遣って、たくさんの信号を送って下さっていると、私は思います。亡くなった方を思い起こし、その方の為に祈りましょう。

10月28日 中和田教会バザー



委員会だより

△10月17日(日) 11名出席
小林主任司祭あいさつ
10月一粒会大会、バザーと行事が続くので宜しく願います。

- 行事計画
- * 10月28日(日) バザー
 - * 11月4日(日) 死者のためのミサ
 - * 11月11日(日) 七五三
 - * 11月25日(日) 初聖体
 - * 12月15日(土) 黙想会・共同回心式

- 審議事項
- ☆ 敬老の祝い反省の反省…往復はがきでの通知方法は返信が半分のみで、再考の余地あり↓行事G
 - ☆ ミサの時間…11月より第一、第二土曜日にも実施。
 - ☆ 第五地区共同宣教師司牧委員会(9月9日)報告中和田からは小林神父と小野委員長出席。
 - ☆ 避難誘導訓練…6-12泉消防署の立ち入り検査で避難訓練が義務付けられ、10月21日ミサ後に実施する。誘導員の指示で外に出る。また教会で炊き出しができるよう夏期学校で訓練することを要理にて検討する。
 - ☆ バザー収益の使い方…修繕費のみならず福祉にもっと使いたい。今年度は建設会計に50%、愛の献金会計に50%を入れる方向で考える。また今後屋根の補修等営繕費用もかかり、長期展望で収支バランスを考えていく必要がある。討議の方向付けのため委員長がたたき台を作成、委員会討議を経て信徒会に諮る。
 - a. 各グループ連絡・報告事項
完了。消化器は13本ある。

- 30年以上経過の扇風機が多いので、来年夏に取り替える。また新集会室のエアコンが弱いので取り替える。
- 物置の柱が白アリにやられていて自分で自分たちで修理する。他の部分の白アリ駆除要否を見極める。物置に鍵を付ける。
- b. 典札G…横浜教区第15回秋期典札研修会10-14磯子教会にて開催。
- 12-15 2時小林・浜田両神父で講話と赦しの秘跡、共同回心式ミサ
- 12-16 浜田神父の中和田教会での初ミサ
- 10-12月の平日のミサ予定
- 10-5(金) 10時 初金
- 10-27(土) 16時(バザー準備後)
- 11-1(木) 10時 諸聖人
- 11-2(金) 10時 死者の日
- 11-7(金) 10時 初金
- 12-24(月) 主の降誕夜半のミサ
- 12-25(火) 主の降誕夜半のミサ
- c. 財務G…会計報告(9月までの進捗)問題なく推移している。
- d. 行事G…バザー関係の報告(バザー券、食券などの販売状況、案内状は10-7発送)
- e. 広報G…連絡網の修正版完成。
- f. 宣教G…要理学校の状況報告
- 9-11 敬老会に向けた歌の練習
- 9-15、16 中学生会合宿(井上リスターの指導)
- スタッフが少なく、何をどこまでやるべきかの枠組みも明確でないところあり。親を中心に運営する方針だったが、手が足りず、お手伝いの方を募りたい。
- g. 福祉G…9-15に第一回の集まり。グループ員公募で3名の方が参加。
- グループの目的、目標につき議論中。今後の活動の活発化に応じ、費用

予算化も検討必要。

- 小林神父様より
- 聖堂使用申し込みの許可 12-2、12-11 区民クリスマスマスの聖歌練習
- 第五地区共同宣教師司牧地区委員会に向けて
- 中和田教会の提案する将来ビジョンは小野委員長案にて提案
- 水曜日の聖書研究 10時、土曜日夕方の主日ミサは宣教グループ、典札グループ検討に基づき実施
- 11-25 初聖体 祝いの方法を考えた。

07年10月委員会後記 小野委員長

10月8日に聖園女学院にて横浜司教区一粒会大会が開催されました。今年は第五地区が当番地区で、ほぼ1年間、中和田教会からも多くの関係の皆さんや教会学校の皆さんがその準備に奉仕をして来られました。その大会ですが、1年間の準備、活動のクライマックスを飾るに相応しい、素晴らしい大会でした。とくに今年から、こども向けと大人向けのイベントを同時進行で行う新機軸が打ち出され、幅広い世代の大勢の参加者が「召命」について考える意義深い一日となりました。小林神父様が主日ミサの説教で述べておられた通り、大会そのものの意義もさることながら、約1年もの時間をかけて来た準備活動自体や他の小教区との交流も「召命」に関する理解を深めることに大いに役立つ

ことと思いません。次世代を担う若い参加者の皆さんの記憶に、この大会の思い出が深く刻まれることを祈ります。

10月28日に恒例の中和田バザーが開催されました。前日の準備では雨天に見舞われ、挙句の果てには台風20号までやって来てどうなることか、と心配しましたが当日は快晴の恵を頂き、無事に開催することが出来ました。準備に邁進された行事グループの皆様はじめ信徒の皆様は心より御礼申し上げます。バザーは地域の皆さん、教会内外の皆さんと交流出来る大切な行事です。今後もいろいろな工夫を重ねながら全員参加で輪を拡げていきたいと思います。

10月14日の主日ミサ後に、中和田教会としては初めての防災避難訓練が行われました。最初の試みでしたが、今回の結果、反省事項を踏まえて、更に円滑に避難が行えるよう努めて参ります。信徒各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。





第40回横浜教区 一粒会大会によせて

一粒会委員 竹内 広治

今年の一粒子大会は、2007年10月8日(体育の日)藤沢にある聖園女学院のキャンパスにおいて開催されました。特に今年は横浜教区第五地区の担当ということで、いろいろ準備に追いまくられ、役員それぞれがこれぞという確信をもてぬまま、遂にこの日を迎えてしまいました。当日は雨模様の予想でしたが、幸いなことに一日中、降るでも無し、晴れるでも無し、といったお天気でしたから傘はとうとう開かずじまいで済みました。当日の開会前のミーティングのとき、実行委員長の「このような天気、台風でなければ良しとしましょう」の一言で役員一同勇んでそれぞれの持ち場に散りました。

今年の一粒子大会のあらましについては、大会プログラムに目をお通しになればお解り頂けると思いますが、まず常任本部委員長の福本氏と、第五地区指導司祭の久我師のご挨拶にあります通り、共通テーマは勿論のこと、時宜を得た主題の講演など、即ちさきごろ聖座より列福のご裁可があった、ペトロ・カスイ岐部神父ほか187名の壮絶なる殉教を私たちは、大人も子どももそれぞれのプログラムから会得、吸収することが出来ました。

いずれ「一粒会だより・大会記念号」が発行されると思いますが、当日の基調講演を務められた、イエズス会司祭、川村信三師の講演テーマである、召出し・家庭・ペトロ岐部についてと、シスター中村が発表された、海外での宣教体験をじっくり読みたいと思っております。つまり私はその時間帯にステージの裏方仕事に追われ、貴重なお話を聴き損ねていたのです。マリアホールの司教様をお迎えしての、子どもプログラムの進行ぶりは如何でしょうか。少々気に懸かっていた処へ折良く実行委員長が立ち寄りられ、あちらもバッチリですと教えてくれました。苦勞が報われた感じで思わずニンマリ、Vサインです。

今年の一粒子大会の内容構成について、皆様お解りのように従来と異なった進め方をしております。講堂においての一般プログラム、マリアホールを自由な空間として活用する子どもプログラム。そして子ども達の活動を全面に大きく押し出し、以前から刺身のツマ程度しかの扱いを改め、この大会は子どもが主体となって動かすのだという自信と責任を身につけさせたい・・・そうした意味から大会の感謝のミサは子ども達が奉仕することになりました。役員の中から祭儀にご精通の方にミサのご指導をお願いいたしました。その素晴らしいご指導のお陰で、立派にごミサが捧げられましたこと覚えていらっしゃるでしょうか。

昨年の8月6日(日)第五地区の大船、鍛冶ヶ谷、片瀬、戸塚、藤沢の各教会から大勢の子ども達、ならびに信徒の方々、高野神父、渡辺神父、浜田助祭(当時)宮内神学生、ネルソン神学生、ならびに一粒子事務局の方々が中和田教会に集まり、「一粒会と神学生と第五地区子ども達の交流会」が盛大に開催されたことを思い出して下さい。

中和田教会挙げての応援がありました。中和田農園から新鮮な野菜と果物が届いて、大人も子どもも大喜び、共同司式による子どもミサを基点に、ゲーム、話し合いで互いに交流を深めた有意義な一日が、今年の一粒子大会のプログラムに生かされているのです。



第40回横浜教区 一粒会大会テーマ

一粒会委員 竹内 広治

教会で一粒会の委員を拝命していることもあり、そして何より司祭職減少を憂う信徒の一人として、一粒会大会にある期待を抱きながら、このところ毎年参加しております。

いつもなら古い馴染みと「やあ久しぶり」と再会を喜び、この日の講演のあれこれを玩味しながら昼食を済ませ、大会ミサに感動し余徳を味わいながら帰路につく・・・。

充分満ち足りて幸せ一杯の感動を覚えたはずなのに何か足りない・・・いつものことながら聞き流すだけでなく、もっと励むことがあるのではないかと、自責に胸が無性に痛い。

今年の大いに臨むについて私は二つに着眼いたしました。大分偉そうにいいますが一つは上に書かれたようなこと、もう一つは自らが企画し作成して、自らの手で運営すること。

今年全てを任せられた第五地区の各教会の一粒会委員さん達は、実行委員長を頭に下は私のような爺さんまで、心を揃えて昨年の末ごろから、月一回のペースで会議を重ね、能力ある人は自然と判りますから、分科会のリーダーを努めて頂き効率の良い会議の運営がなされました。また中和田教会はひろんのこと、各教会の委員会をはじめ、信徒の皆様のご理解とご協力には感謝、感謝でほかに言葉はありません。打ち合わせの会場を各教会持ちまわりとしたことも、触れあいを深めたグッドアイデアだったかも知れません。

始めに私たちは、大会のテーマを求めて論議いたしました。各々の教会の宿題となりました。結局幾つかの候補聖句から、指導司祭の久我神父様の裁定に従い、このテーマに決まったのです。上から押しつけられたのではなく、信徒の意向の大きさを感じ大切にしなければと思います。

今年の一粒子大会について、私がおもっても嬉しく感じたことを幾つか。

・今年の4月に中和田に着任された、小林神父様が一粒会に深いご理解を示され、また大会の準備などに前向きな姿勢で取り組まれ、会議にも率先してご出席下さったことに心から感謝いたします。神父様のご着任の際の抱負にも、若い人の育成と召命を願い、若い人との交わりに入りたいと云われました。

・一粒会と子どもたち(要理学校)の密着。特に今年の大大会は子どもが主役となりました。これからは離れることのない共同体に進化し、育って行くことを信じております。

・中和田教会各レベルの委員さんのご協力が頂けて有り難かった。大会当日の二つの会場を駆けめぐっての写真撮影。本当にご苦勞様でした。お疲れだったではありませんか。

終わりにあたり一言。

大会当日配られたプログラムの中の、久我神父様のご挨拶に次のような素晴らしいお言葉を見たのです。「この機会に生まれた交流の輪はさらに広まり、きっとこれからの共同宣教司牧推進の上に生かされるでしょう」。

本日、大会会場に召された人のうち、子どもが140人、サポーター60人、一般590人、司祭34人、過去にない参加者の数。大成功であった大会が終わりました。

帰り間際トイレに寄りました。なかに便器を洗っている人がいます。その人は何と何とごミサを終えたばかりの、久我神父様ではありませんか・・・思わず絶句、神父様は軽やかに「ボクがやりたかったから」この様子、子ども達に是非見せたかったと思いました。

